

# IUHW

International University of Health and Welfare



vol. **68**

January 2007

Okawa

Fukuoka



report

中国・台湾との国際交流

topic

大谷藤郎総長が  
東京弁護士会人権賞を受賞!

研究最前線

山本澄子教授・  
装具「GS」の開発

Ohtawara



Chiba



# さらなる飛躍の年に —二〇〇七年、



新春対談

谷修一 学長

開原成允 大学院院長

Aoyama





## 2 《新春対談》 2007年、さらなる飛躍の年に――

谷 修一学長／開原成允大学院院長

## 6 Report――国際交流

<中国>リハビリテーション専門職養成プロジェクト  
<台湾>元培科技大学 稲江科技大学

## 8 小田原キャンパスレポート 第2回

大田原本校と軟式野球の交流試合

## 9 大川キャンパスレポート 第7回

作業療法学科助手 大庭潤平／バレーボール部

## 10 《新シリーズ》研究最前線

福祉援助工学・山本澄子教授  
「最新の工学技術を利用した装具 - G S - の開発」

## 11 Topics & Columns

大谷藤郎総長が東京弁護士会人権賞を受賞／ニッセイ同和損害保険(株)奨学生感謝の集い／医療経営戦略セミナー(医療経営管理学科)／幼稚園児の視機能評価実習(視機能療法学科)／〈コラム〉「私のおすすめ本」第3回(小田原保健医療学部長:田中富久子)／卒業研究発表会(放射線・情報科学科)／卒業研究発表会(医療福祉学科)／結ネットワーク計画(看護学科)／新規着任教員紹介(コラム)「私の主張」第3回(総合教育センター助教授:宮崎路子)／関連職種連携実習(臨床教育委員会)／臨床心理学専攻の設置が認可(大学院)／唐澤祥人日本医師会会長が講演(乃木坂スクール)／福岡で講演会(大学院・リハビリテーション学部)／シーサイドももち開発事業起工式／〈訃報〉渋谷健監事がご逝去

## 16 施設インフォメーション

〈邦友会〉特別養護老人ホーム「おおたわら風花苑」入居開始／〈国際医療福祉大学病院〉院長挨拶一病院の学校法人化のご案内、いきいき老後の健康教室「簡単にできる介護予防体操」、国際医療福祉大学ハンドベル部による院内コンサート／〈三田病院〉三田病院・山王病院医療連携懇話会／〈熱海病院〉「第1回熱海伊東薬剤師勉強会」、熱海病院慰霊祭、職員寮「小嵐寮(仮)」新築工事安全祈願祭／〈山王病院〉第4回山王病院呼吸教室を終えて(呼吸器センター医長:須藤英一)／〈化学療法研究所附属病院〉共に成長する「プリセプター」勉強会実施、笑顔こぼれる「クリスマス会」(療養病棟)

## 20 医療福祉チャンネル774／IUHW短信／学位授与式・入学式のご案内

### 広報誌 IUHW 68号

発行:学校法人 国際医療福祉大学  
(大田原本校) 広報委員会 栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000  
(小田原キャンパス) 神奈川県小田原市城山1-2-25 ☎0465-21-6500  
(大川キャンパス) 福岡県大川市榎津137-1 ☎0944-89-2000  
(東京事務所) 出版広報室 東京都港区南青山1-24-1 ☎03-5775-2505

デザイン:iDept. 写真:小久保陽一、今野 光ほか 編集:東京事務所出版広報室

©国際医療福祉大学 2007 Printed in Japan 禁断転載・複写

【表紙施設写真】 右上から時計回りに「リハビリテーション学部言語聴覚学科棟」(2007年2月竣工予定)、「大学院東京サテライトキャンパス・乃木坂スクール」(2007年4月移転予定)、「青山一丁目タワー(仮)4・5階」,「化学療法研究所附属病院」(2007年春新外来・病棟完成予定)、「特別養護老人ホーム おおたわら風花苑」(2007年2月入居開始)、「シーサイドももちプロジェクト」(2009年春竣工予定)。



# 開原成允

国際医療福祉大学大学院 院長

「かいはら・しげひと」

東京大学医学部卒。医学博士。一九八三年東京大学教授、中央医療情報部長に就任。国立大蔵病院院長を経て、二〇〇一年四月より国際医療福祉大学大学院院長を務める。

## 新春対談

## 二〇〇七年、さらなる飛躍の年に――

司会:高岡尚代(医療福祉チャンネル774) 撮影:小久保陽一



これまで新設の三学科とも多くの方に受験していただき、結果として、たいへん優秀な学生を第一期生として迎えることができました。まだ始まったばかりですが、まあ小さな世帯ですから、これから手作りの細やかな教育を実践していただけるものと教員の皆さんにも期待しています。司会:地元ニーズも高かったようですね。谷:地元の皆さまに向けて公開講座を開講していますし、大学祭にも多くの方にこ来場いただきました。小田原市をはじめ周辺地域の皆さまには私どもを受け入れていただき、感謝しております。司会:一方、大田原本校では、薬学部が六年制課程としてスタートしました。

# 谷 修一

国際医療福祉大学 学長

「たに・しゅういち」

千葉大学医学部卒。医学博士。厚生省(現厚生労働省)保健医療局長、健康政策局長を歴任し、主として医療政策に携わる。二〇〇一年一月より国際医療福祉大学学長。

開原・視機能療法学分野と臨床試験研究分野は学部からの卒業生に対応する形で新設されたわけですが、助産学分野はまったくの新たな試みとして新設しました。大学院レベルで助産学を教えようという取り組みは、天使大学や聖路加看護大学等でも行われていますが、全国的にみてもまだ少ないですね。これから少子高齢化社会を迎えるにあたり、子どもを育てる最初の一步をお手伝いする助産師の仕事は重要性を増すでしょうから、大学院で高い技術を持つ助産師をたくさん育成し、彼らが全国に巣立っていただければと願っています。

国際医療福祉大学は本年の四月で開学一三年目を迎えます。谷 修一学長、開原成允大学院院長に、今後の抱負を語っていただきます。二〇〇六年を振り返って――

地域や社会のニーズに応え教育課程をさらに充実  
谷学長(以下敬称略) 学生の皆さん、ご家族の皆さま、教職員の皆さん、それぞれ良いお正月をお迎えのことと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

開原大学院院長(以下敬称略) ..あけましておめでとうございます。今年も皆さまにとって良い年であることを願っております。司会:大学・大学院ともにさまざまな動きのあった二〇〇六年でした。まず大学には、小田原の保健医療学部が新設されましたね。谷:はい。小田原保健医療学部は、駅前大学と呼んでも良いくらいJR小田原駅から近く、おかげ



司会：サテライトキャンパスも増設され、学ぶ場が全国に広がっています。

開原：東京・熱海・福岡のサテライトキャンパスに加えて大川・小田原と増え、それに大田原本校の大学院と、小さいですが熊本にも教室がありますので、拠点が全部で七つになりました。日本中どこにいても勉強できる大学院が理想で、まだ全国とまではいきませんが、ずいぶん範囲が広がったと嬉しく思っています。今年度は東京のサテライトキャンパスが乃木坂から青山二丁目の、駅から徒歩一分の新しいビルに移転しますし、さらに環境を良くしていきたいですね。

司会：学生数も着実に増えています。  
開原：ありがたいことに年々入学者が増え、昨年度は博士課程の四七名を含む三三一名の方に入学していただきました。前年に比べ六〇名ほど増えています。

司会：国際医療福祉大学は四月で一三年目を迎えますが、在学生数もさることながら、輩出した卒業生の数もかなりの人数になりました。  
谷：五〇〇〇名を超えましたね。今後も毎年一〇〇〇名近くが卒業しますから、かなりの数になると思います。第一期生が世に出てすでに七年経つわけですから、そろそろ現場で中堅として活躍している頃です。

の目の輝きが違いますね。  
谷：やはり医療福祉の専門職を目指すというはつきりとした目的意識を若いうちから持っていることが、大きな力になっているのでしょう。夜遅くまで図書館で勉強している学生たちのまじめな姿には、いつも感心しています。  
司会：学生といえ、大学では学生ボランティアもかなり活発なようです。  
谷：大田原本校では一昨年にボランティアセンターを新設して、常勤スタッフが学生ボランティアと地域との橋渡しを始めました。それまでもボランティア活動は盛んでしたが、センターの設置が一つのきっかけとなり、さらに活発になってきました。小田原でも福岡でも、学生たちが大田原に負けないくらいボランティア活動に積極的です。

司会：ボランティア活動のような学生レベルでの地域交流に加え、大学としても、昨年はいろいろな地域交流の活動をされました。  
谷：各キャンパスで公開講座を開講していますし、大田原では毎月一回ドキュメンタリー映画の上映会を開催して地域の皆さまに足を運んでいただいています。また高大連携ということでも、大田原女子高の生徒さんに本校に来ていただき、大学の先生が講義を行っていました。この取り組みはすでに四年目に入りました。  
司会：「地域に開かれた大学」ということで、国際医療福祉大学の名称の通り、国際活動も盛んなようです。

谷：開学以来、毎年夏に学生が海外でボランティア活動をしています。留学生の受け入れも、現在は学部・大学院合わせて五七名ですが、来年度は若干増える予定です。また、JICA（独立行政法人国際協力機構）のプロジェクトに参加し、中国のリハビリテーション専門大学の設立に協力したり、それに伴って教育レベルの向上を目的に、教員の現地派遣を行ったりしています。ベトナムのホーチミン市での草の根協力プロジェクトにも昨年から参加していま

司会：卒業生の国家試験合格率も高いところがあります。  
谷：特に理学療法学科は開学以来、合格率一〇〇%という素晴らしい結果を出していただいています。今までデータが公表されなかった社会福祉士の試験でも、全国で一〇位以内、新卒者五〇名以上が受験する大学の中では全国二位ということ、学生の皆さんのがんばりと、教員の皆さんが一生懸命指導にあたっている結果であらうと思っています。  
司会：大学院の卒業生もたくさん社会で活躍しているらしいですね。  
開原：私どもの大学院の特徴として、仕事を持つ人でも学びやすいように、授業時間一つをとっても平日の夜や土曜日に重要な授業を集中して行うなど、社会人にとっても大事にしています。ですから入学される方の中には、すでに社会人として活躍されている方が多いんです。  
司会：現場でキャリアを積まれてから大学院に戻ってくる。それだけ魅力のある講義が多いということでしょうか。  
開原：皆さん、いろいろな目的があるのだからと思います。キャリアアップを図りたい方、退職されたから改めて自分の一生の仕事をまとめてみたいと思っている方、今の時代の新しい技術や学問を学び、また現場で活躍したいという方。私どもはそういう皆さんでできるだけ広く受けとめたいと思っております。

### 「国際医療福祉大学はまだ発展途上にあります。`教育する力、をさらに充実させていきたい」

司会：続いて二〇〇七年の動向ですが、今年福岡のリハビリテーション学部言語聴覚学科が新設されます。  
谷：大田原本校ではすでに言語聴覚学科が開設されていますが、大学レベルで言語聴覚士の教育を行っているところはまだ少ないんです。九州では恐らく初めてでしょうし、高齢社会を迎え、ますます需要は増えると思います。  
司会：地元ニーズも大きかった？  
谷：そうですね。非常に期待をされていると思います。地元のニーズという点では、一学年定員四〇名だった理学療法学科も八〇名に増員しました。  
司会：大学院では、臨床心理学専攻が新設されますが、  
開原：これからは、例えばがんのターミナルケアで実際に臨床心理士が患者に付き添うなど、医療現場における臨床心理士の役割が大きくなっていくと思います。今まで臨床心理士という職種は、文科系の大学で養成することが多く、医療福祉系の大学院が臨床心理学の講座を持つというのには初めてでないにしても少なかつた。そういう意味でも、特徴のある専攻にしたいと思いい、今、一生懸命準備をしているところです。幸いなことに私どものグループには病院をはじめとする関連施設がたくさんあり、実習の場が豊富ですから、現場でみっちり技術を修得した臨床心理士の方を育てていきたいですね。  
司会：グループ関連施設といえますと、今年は大田原本校の敷地内に特別養護老人ホームの

### 「次代を見据えて――医療福祉の新時代に対応できる専門職スタッフを育成したい」

司会：医療制度改革、介護保険導入など医療界は近年めまぐるしい変化の時を迎えています。昨今の医療界の様相をどうご覧になりますか。  
谷：制度は時代とともに変わるものですが、ここ数年の財政再建に関連して、いろいろな制度が一気に変わったという印象を受けます。ただ、私どもの大学が育成を目指している医療福祉の専門職、最近では医師も含めて、医療者ともいいますが、彼らと患者、または福祉の利用者との関係は基本的には変わるはずはなく、また変わってはいけないものだと私は考えています。教育課程の中ではありません、最新の医療制度についても学びますし、患者の声を医療に活かしていくことも大切ですが、医療者と患者との関係といった基本的な部分は変わらないというのが私の印象です。  
開原：医療の、という意味では医療者・患者関係は変わらないのかもしれませんが、意識の上ではずいぶん変わったように私は思います。患者が自分で医療機関を調べ、自分で医者を選ぶようになった昨今、医療者の側でも一患者さんに選ばなければならない」という気持ちが出てきたと思います。  
司会：大学も大学院も、選ばれる医療者を育てなくてはならないのです。  
谷：その前にまず、受験生に選ばれる大学にならないとね（笑）。  
司会：大学は現在三キャンパスありますが、どこも人気が高いようですね。  
谷：医療福祉の単科大学ではなく、総合大学であるところが魅力なのでしょう。実際に大学の中でいろいろな学部の、いろいろな職種を目指す学生たちと交わって「チーム医療」を一緒に学べるというのが、私どもの大学の大きな特徴ではないかと思えます。

「おおたわら風花苑」がオープンしますね。  
谷：大田原本校の構内にはすでに認知症のお年寄りのためのグループホームや、身体に障害を持つ方のためのリハビリテーションセンターがあるんですが、隣接した形で特別養護老人ホームを作り、今春二月には地域のお年寄りに入居していただく予定です。実習の場としてはもちろん、先ほどもお話しに出ました学生ボランティアの活躍の場としても活用させていただきます。  
司会：今年も国際医療福祉大学・大学院はさらに学生さんの活気があふれそうですが、今後の展望をお聞かせください。  
谷：国際医療福祉大学は、まだまだいろいろな意味で発展途上にあると思います。学部や学科の増設、関連施設の開設といった物理的な意味に限らず、教育の仕方、大学運営の仕方、大学と大学院との関係など、すべてがまだ完成しているわけではないので、試行錯誤を繰り返しながら発展を続けていく、そういう過程にあると思うんです。その中であって、やはり大学ですから、学生を教育する力と、この力を改めて教員の皆さんに考えていただき、さらに充実させていきたいと思います。学生を中心に考え、学ぶ環境や、受ける教育の質がより良いものとなるように、教員の皆さんを中心にぜひがんばっていただきたいと思えますし、私どももそのための努力を惜しまないつもりです。すでに五〇〇〇名

### 「大学院の情報化を進めて、いつでもどこでも学べる環境を作りたいですね」



を越す卒業生が全国で働いているわけですが、医療福祉の現場で活躍している先輩方に負けられないような、役に立つ、有能な人材を世の中に送り出していくことが、私たちの大学に与えられた使命ではないかと思っています。  
開原：大学院のほうは、そろそろ大学院の研究から生まれたもので、社会に出て行くものがあるっていいかなと思っています。一例を挙げますと、福祉援助工学分野の山本澄子先生が研究され、企業と一緒に開発された歩行用の器具が今、販売されるようになり、高い評価をいただいています（本誌一〇頁参照）。そういうものがいくつか出てくると思います。それから、大学院の情報化をさらに進め、時間の制約、そして場所の制約を超えて学べる環境を作りたいと思っています。現在も、遠隔システムを取り入れて七つのキャンパスで毎日授業をしていますし、これだけ遠隔授業を使いこなしている大学院は全国でも少ないと思いますけれども、さらに一歩進めて、インターネットで授業を配信し、いつでも、世界中どこにいても授業を受けられるようにしたい。情報化を表現することで、さらにいろいろな人が大学院で学べるようになるのではないかと考えています。  
司会：ありがとうございます。  
（構成：出版広報室 今村美香）

# 国際交流

中国・台湾

2006年10月、本学と中国リハビリテーション研究センターとの交流プロジェクトがひとまず終了した。プロジェクトの成果と今後を報告するとともに、中国に赴いて教育・指導の任にあられた教員の所感を掲載する。



他方で、台湾の2つの大学との交流も進んでおり、その模様をレポートする。

中国リハビリテーション研究センターとの交流プロジェクト

保健学部長・作業療法学科長 杉原素子  
二〇〇一～〇六年の五年間にわたる独立行政法人国際協力機構（JICA）による本学と中国リハビリテーション研究センターとの「中国リハビリテーション専門職養成プロジェクト」が、〇六年一〇月末日をもってひとまず終了した。ひとまずという意味は、終了時評価において、理学療法士（PT）・作業療法士（OT）養成における臨床実習、教務管理および教員研修領域に課題が残されたため、一年間の延長が認められたことによる。この五年間および延長期間におけるPT・OTの教員養成、教育カリキュラム、教務管理および教員研修に関する事業は本学が全面的に担い、これについて外務省からは高い評価を得ている。さて、本学と中国リハビリテーション

研究センターとの交流関係は長く、深い。開学早々の一九九六年から五年間、本学は通信・放送機構（TAO）による「アジア地域における衛星を利用した遠隔リハビリテーションシステムに関する研究開発プロジェクト」を中国リハビリテーション研究センターと行い、遠隔教育を利用した医学的リハビリテーション技術教育に実効性の高い評価を得た。この五年間という長い期間は、日本と中国双方の医学教育プログラムの送受信を通してお互いの親交を深めることにつながった。

また、従来JICAが日本から中国に専門家を派遣して、リハビリテーション医療人材の養成を行ってきたが、一九九七年度から本学は将来の中国において自ら指導者となる中国人を養成することを目標として、中国リハビリテーシ



中国リハビリテーション研究センターにて

ン研究センターからの留学生受け入れを独自にスタートさせた。この留学生受け入れは隔年にPT、OT各一名を養成する方法で始められ、すでにPT三名、OT二名が日本の国家資格を取得した。彼らは今回のプロジェクトに必要不可欠な人材に育ち、現在は首都医科大学（北京市）のリハビリテーション医学院四年制教育課程の教員として、すでに教育活動を行っている。

これら二つの五年間プロジェクトと留学制度は、本学と中国リハビリテーション研究センターの結びつきをより強固にし、これからも双方の関係に有効に機能していくと考える。

中国社会、日本社会を考えた五年間  
保健学部理学療法学科教授 藤沢しげ子  
日本最初のPT・OT養成校で、欧米のPTから理学療法教育を受けた者として、中国初のPT・OT四年制大学を作るプロジェクトに参加できたのはこの上ない喜びです。  
当初中国ではOTという職業の認知度が低く、卒業させても就職先がないとの理由で、中国リハビリテーション側はPTとOTのキャリアを分けて教育することに抵抗がありました。しかし、中国社会の変化は急速であり、五年後第一期生の卒業時には、PTとOTを分離したカリキュラムを持つ大学は中国のリハビリテーション医療の指導的役割を持つものとして高く評価され、この学部卒業生は渴望される存在となりました。中国社会の巨大なエネルギーのうねりを強く

感じさせられ、翻って日本社会を考える五年間でもありました。  
人と人との交流など貴重な経験  
保健学部理学療法学科助教 秋山純和  
JICAを通じて中国のPT養成に多少なりとも協力できたことは、貴重な体験であった。改めてPTの必要性を自覚することができた。中国をはじめ東南アジアの人々との交流ができれば、もっと素晴らしいのではないかと感じた。プロジェクト活動を通じて今まで気づかなかった日本の教育と学生の良い点、悪い点も知ったように思う。春節（旧正月）に中国リハビリテーション職員の出し物で、李院長（中国横笛）と日本人専門家である本学教員石井PT（指揮）・新川OT（電子ピアノ）・秋山PT（フルート）とで中国の曲を演奏したが、仕事以外でも交流ができ、良い思い出になった。



リハビリ・スタッフへ講義中の秋山助教

熱いまなざし、輝く瞳

保健学部理学療法学科講師 石井博之

私は中国に二回赴任し、あわせて一年半、本プロジェクトで活動させていたいただきました。その頃は第一期生が三年次と四年次であったため、彼らの臨床実習や卒業研究の時期でもあり、活動の中で深い関わりができたように思います。彼らがいろいろな場面で見せてくれたリハビリテーションに対する熱いまなざしは今でも思い出します。新しいものに触れる時に瞳が輝くのはどの国でも同じです。きっと彼らが中国のリハビリテーションの未来を支えていくことなのでしょう。

帰国して早四ヶ月、今日日本で暮らしていますが、やはりあの瞳の輝きって大切ですね。これからも日本でみんなと輝いていこうと思っています。



理学療法専攻第一期卒業生とともに。2列目左から4番目が石井講師。

## Taiwan 台湾 [Taiwan] 中国 China [China]

元培科技大学との交流協定に調印

今般、本学は、台湾の台北市から車で一時間の新竹市にある、元培科技大学と人的・学術的交流の促進に合意し、その覚書を取り交わした。

この覚書の調印式は、二〇〇六年一月二二日に台北市で開かれ、本学から、高木理事長、谷学長、佐々木学長、高橋学長等が出席し、元培科技大学から、林校長、蔡副校長、蔡研究所長、黄大学院長等が出席した。

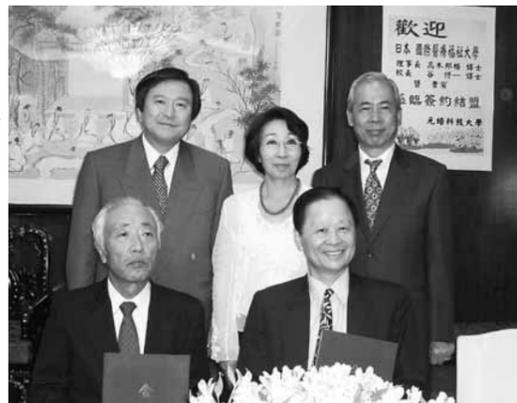
この協定は、両校の学生・教職員の交流、出版物の交換、共同研究及びシンポジウムの共同開催等を柱としている。

調印式の翌日、本学ミッションは同大を視察したが、多数の学生・教職員の方々から熱烈的な歓迎を受け、本学との今後の交流に、同大全体が大きな期待を寄せていることが、直接肌で感じられた。

同大の概要は、一年前の本学現



元培科技大学のキャンパス



調印を終えて。前列右から林進財・科技大学校長、谷修一学長。後列右から林三和・科技大学董事、蔡雅賢・科技大学副校長、高木邦格理事長。

地視察団派遣時の本誌64号の記事で紹介しているが、同大はその創設経緯から、放射線分野の人材育成について台湾随一であり、現在では、看護、医療経営管理、バイオ、情報金融等、時代の要請を反映

し、さまざまな分野の人材育成を行っている。台湾でも急速な少子高齢化が問題になりつつある中、同大も図書館や事務棟新築など施設の充実を図っており、本学との交流を機に、老人福祉分野の教育も手掛けたいとされている。

現時点では、まだ交流の具体化には至っていないが、元培科技大学側は、本学の充実した指導や高度な設備を活用した夏季短期実習を本学内で行うことの可能性を検討し、また、本学側でも、両校学生による研究発表を元培科技大学内で行うことを検討している。

本学は、留学生の受け入れはもちろんのこと、周知のとおり、中国リハビリテーション研究センターとは既に協力関係にあり、また、学生実習も海外各地で実施しており、今回の元培科技大学との提携により、今後一層の国際化が進むことになる。

（東京事務所法務企画部長 齋藤純）

稲江科技大学の一行が本校を訪問

一月一六日、台湾の稲江科技大学の一行が本学視察のために来校された。同大学は二〇〇一年に開設されたまだ新しい大学で、キャンパスは台湾の中南部に位置し、三学部一六学科から構成される総合大学である。今回の視察の目的は、同大学の老人福祉学科の運営について、本学の医療福祉学科を参考にしたいというもの。

来られたのは、学長、理事、老人福祉学科長、秘書の四名の方で、本学からは谷学長、伊藤常務、小島国際部長、絹木助教、陳助教が対応した。一行は本学の運営状況のみならず、日本の老人福祉行政、日本社会における老人のあり方や位置づけにも大変興味があるらしく、それらについてたくさん質問が出され、谷学長がていねいに回答した。



医療福祉学科の入浴実習室を見学する一行

大学、リハビリテーションセンターを視察の後、マロニエ苑、栃の実荘へも足を伸ばし、国際医療福祉病院の佐藤院長、マロニエ苑の徳江施設長とも懇談、大変満足された次の目的地に向かわれた。

（本校事務部長 西留秀二）

# 軟式野球サークルが大田原本校野球部と交流試合

一月三日(木)、小田原保健医療学部軟式野球サークルは大田原本校軟式野球部と交流試合を行った。試合は白熱した内容で、手に汗を握る展開となった。



大田原本校軟式野球部は部員五二名を誇る名門で、加盟している北関東大学軟式野球連盟主催の大会で数々の実績を上げ、優勝や全国大会出場経験もある大変よく組織されたチームである。伝統もあり実績も残している大田原チームに対して、小田原チームはどんな戦いを見せてくれるのか？期待と不安が心の中をよぎる。当日は医療福祉センター774の取材が入っており、小田原チームは試合が番組になることに緊張の色を隠さない。試合開始に先立って挨拶した黒澤学科長は「今日は、新生小田原チームが古豪大田原チームの胸を借りるつもりで遠征してきました。怪我のないように楽しく、そして思い切りプレーしてください」と一同を激励した。

## 手に汗握る接戦で初戦は引分け

ダブルヘッター第一試合の小田原軍の先発ピッチャーは理学療法学科一年石田紘基君。武器は、伸びのあるストレートと打者の手で急激に曲がるスライダート。対する大田原軍は甲子園出場経験のあるスラッガーも名を連ねる重量打線。「ストライク！」審判を買って出たのは、すでに大田原軟式野球部を退き、卒業や就職に向け忙しい中、今日



黒澤学科長(顧問)の即席理学療法

のために駆けつけてくれた四年生たち。我々の不安はどこ吹く風。石田君は快調のすべり出し。快速球が次々と決まり、大田原軍の重量打線を押え込んでいく。一方、大田原軍のエース、作業療法学科二年山崎将輝君はアンダースローの技巧派。小田原軍は繰り出される多彩な変化球をなかなか捕らえることができない。小田原軍のベンチではマネージャーの作業療法学科、飯田めぐみさん、小池沙由里さん、須川真衣さん、宮坂朋子さんが慣れないスコアブックを丁寧につけながら、声援を送っている。

両投手の投げ合いがスコアボードに〇を刻んでいき、ゲームは後半戦へ。小田原軍のピッチャーがキャプテンの理学療法学科一年富田浩輝君に代わるが、富田君も大田原軍を押え込み、終わってみれば試合は〇対〇の引分け。小田原軍の健闘が光る好試合であった。

ここで一五分の休憩。観戦に訪れた本校学生課の栗田さん差し入れのりんごを頬張りながら水分補給を行う小田原選手の顔から「いい試合ができた」と満足げな笑みがこぼれる。

## 第二戦は健闘及ばず惜敗

初戦の興奮も冷めやらぬ中、小田原軍

の先攻で第二試合が始まる。大田原軍の先発は医療福祉学科二年鎌田佑一君。第一戦の山崎君とは好対照で、剛速球が売りの右の本格派。小田原軍一番バッターの作業療法学科一年鈴木聡史君が出塁し、三番バッターでこの日打撃好調のキャプテン富田君に打順が回る。ここで富田君はライトの頭を越える二塁打を引っ張れば、待望の先制点をたたき出す。小田原軍のマウンドに上がったのは理学療法学科一年亀井友博君で、右投げの本格派。二試合を通してキャッチャーを務めた理学療法学科一年豊田大輔君が「いい球がきますよ！」と声をかける。大田原軍もこのままではいけないと気合を入れなおし、試合は取ったり取られたいのシーソーゲーム。小田原軍は、チーム一のパワーヒッター、看護学科一年布川祥司君が豪快なバットイングを見せ、守っては看護学科一年のサード塩飽悠介君が三塁線を破るうかという打球にダイビングキャッチ、思わず飛び出した三塁ランナーにタッチしてゲッツーを奪うなど、攻守ともに好プレーを連発した。試合は結局、地力に勝る大田原軍が七対四で勝利を収めた。試合後、初戦でマスクをかぶった大田原軍の言語聴覚学科二年栗田基史君は「初めは、一年生だけのチームだから一方的な展開になるかなとためてかかっていたが、途中では本心に負けることも頭をよぎった」と、小田原軍の健闘を称えてくれたそうである。

野球サークルが口火を切った大田原本校との交流戦。各サークルが活発な交流を進めていってほしいことを切に願うものである。(学務課 村山京三)

# ウェルカム！ 2007年



作業療法学科助手 大庭潤平

二〇〇七年を迎えた。テレビや新聞では、政治、経済、スポーツ、お笑い、慌しく毎日のようにネタが変わっている。また、大学への入学希望者と入学定員が、全国の総数としてほぼ一致することや、団塊世代が大量に定年を迎える問題、いわゆる二〇〇七年問題についても取り上げられている。二〇〇七年問題は我が大でも人事ではないかもしれない。ただ、リハビリテーション学部の二〇〇七年問題は、世間とは違った意味合いを持っていてのではないかと思う。

## 夢と希望が開くリハ学部

四月には言語聴覚学科の新設、理学療法学科の増員に加え、キャンパス拡大も着々と進んでおり、新たな福岡リハビリテーション学部、活気あるキャンパスが

待っている。二〇〇七年問題？ ネガティブな発想は何もない。ウェルカム！二〇〇七年である。リハビリテーション学部は開部二年、現在の最高学年は二年生である。二年生の年齢は現役生であれば、そう！二〇歳の年齢は長い人生、二〇歳を迎えられるのは一度。二〇歳を祝う成人式は、今まで成長してきた喜びと感謝の気持ちを表して、これからの我が人生に幸あれとばかりに、夢と希望を胸に大人の扉を開くのである。まさに、我が学部はそんな夢と希望を持つ二年生を筆頭に大人の大学を築こうとしている。昨年四月に二期生が入学し、全学部二〇〇名。お世辞にも多いとは言えないが、一年目と比べ倍になった。今年の四月には三期生を迎え、学生総数は四〇〇名。凄いや！と思う。二〇〇七年は楽しみだ。私が作業療法学科は二年生と一年生の総勢一〇〇名である。この二つの集団がまた面白い。学年はたった一年しか違わないが、クラスの雰囲気はまるで違う。私の思うに、二年生は先輩のいない中、一生懸命頑張っており、良くも悪くも大人しく、おそらく行動よりも思考が優先しているのだから。一年生は、先輩もいるせいかな二年生よりも雑さはあるが元気もある。思考よりも行動が先にたつのか？ これからの楽しみである。どちらにせよ、学生全員が作業療法士を目指して頑張っていることに変わりはない。二年生は作業療法科の専門科目も始まり、講

## コミュニケーション技術の習得、それが課題

義や演習を通して、作業療法について考え始めていくように感じる。そして、その間いや課題に戸惑い、悩み、驚き、感動(?)しているのではないだろうか。一年生もそんな先輩を見て、きつとまた感じ、考え、学ぶであろう。

そんな彼らの課題の一つにコミュニケーション技術がある。障がいを持つ方とその家族の生活に深く関わる作業療法士は、人

## 《SMILE & RELAX》〜新感覚バレーボール!?〜

理学療法学科2年 バレーボール部長 徳永浩一

一期生としてこの大学に入学し、バレーボール部を創ってもうすぐ二年が経とうとしている。部員は男子二名・女子二名の総勢四名で、そのうちバレーボール未経験者は一〇名というチームである。

大川キャンパスのバレーボール部のテーマは《SMILE & RELAX》。これは顧問の早坂友成先生がよく口にしている言葉であり、このチームを語るには欠かせない言葉でもある。チームの特徴は、部員それぞれの個性が豊かで色濃く、むしろ十二分に表れているということ。バレーボールにとってチームが一つになることは重要であるが、このチームはちょっと違う。そのせいか、練習中はいつも笑顔があり、また試合中にはそれぞれがチームを心底リラックスさせるムードメーカーである。それぞれの個性がぶつかるのではなく、全員が「緩やかな空気」を保っている。まさに《SMILE & RELAX》な雰囲気の流れているのだ。もちろん、試合ともなれば二四名が一つにまとまることもできるが、試合成績は創部以来、六勝一七敗と大きく負け越しているが、未経験者の成長が著しく、今となっては誰が未経験者だったのか見分けがつかないくらいだ。まだ「伝統」などとは言えないが、この笑顔の絶えない個性豊かなチームを先輩達に受け継いでもらいたい。

今後は、福岡県クラブバレーボール連盟に所属して公式戦にも出場する予定であるが、その前に一つこのチームに欠けていることがある――まだユニフォームがない。



ナイスレシーブ



部員集合!

研究最前線 第一回  
山本澄子教授（大学院福祉援助工学分野）  
最新の工学技術を利用した  
装具の開発

脳血管障害は日本人の死亡原因の第三位で、年間約一三万人の方が死亡しています。幸い命をとりとめても約半数の方に手足の麻痺などの障害が残り、現在は全国に一四七万人の脳卒中後遺症による片麻痺者がいるといわれています。片麻痺の方は左右どちらかの手足の筋が麻痺しているため、安定して歩くことができません。これらの方々が安全に歩くために足につける道具が装具です。



写真1) 従来の装具

従来の装具は、安全性を得るために、足首をほぼ固定させて使用するものが多かったのですが、このような装具ではスキー靴をはいたような状態となり、麻痺の程度が比較的軽い方にとっては歩きやすいものではありませんでした。

専門である動作分析の手法を用いて約二〇年前より片麻痺の方の歩き方を研究されてきた、本学大学院福祉援助工学分野の山本澄子教授は、「二〇〇名以上の片麻痺者の歩行を計測して、一〇年ほど前によりやく歩行に必要な筋の働きのうち、

片麻痺者では何が不足しているのかを知ることができました」と、研究の経過を語り、筋の働きを補助するための装具の開発を手がけました。

初めはバネを使った大掛かりなものでしたが、五年前より日本最大の義肢装具メーカー川村義肢と共同研究を始め、新しい装具ゲイト・ソリューション（GS）を開発しました。この名称は、歩行（Gait）を解決する（Solution）装具という意味で、「片麻痺の方にとって力学的に必要な最低限の補助だけで楽に歩行ができるように」という、山本教授をはじめ開発に関わった方々の熱い思いが込められています。

GSは、油圧ダンパーといわれる機械部品を使用することにより小型でありながら大きな補助力を発揮します。油圧ダンパーは、歩行時の足関節の動きに対応して制動力を発生し、底屈（つま先を下げる動き）の働きにブレーキをかけます。制動力の強さはダンパー上部のねじの回転で調節でき、使用する方の歩行に合わせて適切な強さを選択できます。底屈に対するブレーキは歩行時の衝撃吸収とともに麻痺側への荷重を軽減して、なめらかな歩行を実現します。

三年前に開発したGS（写真2）はやや大きなものでしたが、その後、工業デザイナーとの共同研究によって、二〇〇五年一月に小型・軽量の「GSデザイン（写真4）」（写真4）を完成させることができました。



写真2) 従来のGS



写真3) GSデザインの油圧ダンパー調節

GSデザインは「人に見せたい装具」を目標に、GSが持つ優れた歩行補助の機能を活かしながら、従来の装具の問題点であった見た目の悪さや靴のはきにくさなどを改善しています。GSデザインは〇六年春には世界最大のデザインコンペであるレッド・ドット賞、秋には国内のグッドデザイン賞を受賞し、同九月に開催された国際福祉機器展のGSの展示には、多くの方が興味をもって来場されました。現在、全国で約一〇〇〇名の方がGSを使用されています。GSは、〇六年一〇月より公的支給の対象品目として許可されたため、今後さらに多くの方に使ってもらえるものと思っています。

GSは、今までの装具とは異なる考え方の装具ですので、使いこなすためには、歩行訓練を担当する理学療法士や装具を製作する義肢装具士の方の協力が必要です。このためのノウハウの蓄積や研究が、現在もお進められています。「GSの考え方を利用して、より麻痺の



写真4) ゲイト・ソリューション デザイン。左から、スポーツ（オレンジを基本とした存在感のあるスポーティーな配色）、スタンダード（暖かい色合いでまわりと調和する落ち着いた配色）、アーバン（都会的な印象のモノトーンでまとめた洗練された配色）

重い方のための装具や他の疾患への応用についても研究を進めています。最新の工業技術によって楽に歩ける方が増えることを願っています」（山本教授）  
（東京事務所出版広報室 茂木由可理）



研究開発に携わった皆さん。中央が山本教授。

トピックス  
Topics

大谷総長が  
東京弁護士会人権賞を受賞

本学の大谷藤郎総長が「第二一回東京弁護士会人権賞」を受賞された（二〇〇七年一月一〇日授賞式）。

この賞は東京弁護士会が一九八六年から制定しているもので、「人権擁護活動に地道な努力をつみ重ねてこられた方々を表彰し、人権の発展、定着に寄与すること」を目的としている。

大谷総長は厚生省（現厚生労働省・以下同）在任中、保健・医療・福祉の諸政策、専門職の地位向上に尽力され、またハンセン病や精神障害に苦しむ人たちの人権擁護に努められた。厚生省退官後もこれらの活動、とりわけ人権擁護運動に熱意を持って取り組まれた。精神保健法、その後の精神保健福祉法等、精神障害者の人権回復への一連の法律改正に貢献する一方、「らい予防法」廃止運動を進め（九六年に実現）、ハンセン病の患者さんが受けた偏見・差別を風化させまいと、九三年には高松宮記念ハンセン病資料館を完成させた。これらの活動が受賞の対象となったわけである。

受賞を機にお話をうかがった。  
「共に生きる社会」  
この精神を受け継いでほしい  
この度の人権賞はハンセン病だけではなく、



**Profile**  
大谷藤郎総長  
1924年滋賀県生まれ。京都大学医学部を卒業後、保健所などの勤務を経て、59年に厚生省に入省。国立療養所課長、地域保健課長、公衆衛生局長、医務局長などを歴任し、83年に退官。95年本学の初代学長に就任し、2001年からは総長を務める。93年には公衆衛生のノーベル賞といわれるWHO（世界保健機関）のレオン・ベルナル賞を受賞。

大谷総長の多くの著作の一部

く、精神病をはじめとする難病、障害者の問題に対し人権運動に尽くしたということにいただきました。これまでの受賞者は在野で苦勞された方が多いのに、私は元お役所の人間ですから、受賞の資格があるのかなと恐縮しています。同時に、とても名誉に思っています。

ハンセン病に取り組みようになったのは、京都大学で医学の勉強を始めたときですから、戦前の話です。京大医学部に小笠原登という先生がいらして、母の里の近所の、寺の坊さんの息子さんだった。それで母が訪ねて行っている教えてもらえと。行ってみたら、ハンセン病の患者さんがいて、びっくりしました。患者はすべて島に閉じ込めてしまえという時代だったが、先生は無意味だ」と国の政策を批判しておられた。恐る恐る先生の手伝いを始めたものの、家に帰ると「もう行かないぞ」と。でも一晩寝ると「ひょっとしたら先生の言っていることはすごいことかもしれない。先生のそばでこれやるのが意味があるのではない

か」と、また先生の所に出掛けて行った。戦時中でしたから、「戦死する前に何かお役に立つことをしたい」という自分なりの思いもあったんですよ。

厚生省在任中、小笠原先生の影響でハンセン病患者さんのために一生懸命やりましたが、本当の意味で人権のために活動したと言えるのは退官後のことです。宇都宮病院事件で、海外の人権団体が日本政府の人権取り組みを批判する主張に驚き、「人権の尊重される社会とは、ただ優しいだけではなく、一人ひとりの人権を保障する手続きを取り得る社会である」と反省し、らい予防法廃止を決意し、運動の先頭に立ったのです。

らい予防法廃止後、入所者が国の賠償責任を訴えた裁判では、原告患者さん側、被告国側、双方から証言を求められました。普通は証言する側で打ち合わせをして裁判に臨みますが、私は対立する両方の側から証言を求められたので、結局打ち合わせは一切せず、すべてを正直に、自分の知っている限りありのまま証言しました。この証

言が「らい予防法国賠訴訟 大谷藤郎証言」（皓星社）という本になっています。  
障害者運動を通して学んだこと、考えたことをたくさん本に書いてきました。若い人たちに伝えたいからです。変わりゆく時代に合うよう、おかしなところは自ら考え修正して、自らの規範にして、「共に生きる社会」実現に尽くしていただきたいですね。（構成・出版広報室 山内邦雄）

※1 ハンセン病

「らい菌」によって引き起こされる感染症。病者はらい菌を発生したノルウエーのA・ハンセンに因む。らい菌の感染力は非常に弱く、乳幼児期に治療を受けていない保菌者と繰り返し接触しない限り感染しない。発病しても適切な治療により完治する。日本では戦後、特効薬「フロミン」が使われるようになり、ハンセン病は治る病気になったにもかかわらず、一九五三年には「らい予防法」が制定され、戦前からの強制隔離政策が踏襲された。ようやく九六年に「らい予防法」は廃止された。九八年、療養所の入所者三名が国を相手取り「らい予防法違憲国家賠償請求訴訟」を提訴。二〇〇〇年に国の責任を認める画期的な判決が下った。

※2 宇都宮病院事件

一九八四年、精神病患者らが病院職員の実行によって死傷した事件。

### ニッセイ同和損害保険(株) 奨学生感謝の集い

二〇〇六年一月二八日(土)、ホテルニユーオータニにおいて、「ニッセイ同和損害保険株式会社奨学生感謝の集い」を開催した。

「ニッセイ同和損害保険株式会社奨学金制度」は、ニッセイ同和損害保険株式会社創業百周年記念事業の一環として平成九年から始まったもので、本学が推薦した学生に対して、返還義務のない奨学金を卒業まで給付していただいている。平成一八年で一〇年目を迎え、その間この制度で本学を卒業した奨学生は五三名にのぼり、現在在学中の学生二八名を含めると、これまで合計八一名の学生が奨学金をいただいている。



1列目の左4人目から、須藤会長、岡崎名誉会長、石井常務。2列目の左5人目から、谷学長、高木理事長、開原大学院院長。

### 放射線・情報科学科 卒業研究発表会

一月四日、放射線・情報科学科四年生の卒業研究発表会が行われた。参加者は学生全員(一・二年生は自由参加)および教員であったが、発表会に向けての準備、会場の設営および撤収は四年生の手によって行われ、まさに手作りの発表会であった。

この発表会は「学生が卒業研究の発表を行うことで研究への考察をより深めてもらいたい。相手の意見の理解や自分の考えを的確かつ明瞭に述べることを求められる質疑応答の場を経験してもらいたい」との学科教員の希望から開催することになったものである。

午前中は口頭発表が、午後にはポスター発表が行われた。それぞれの発表について発表賞が設けられ、口頭発表賞は石川幸江、ポスター発表賞は上野知美、五位測優、櫻井真純・柴田夏樹(共同発表)、鈴木重弓、柴沼初実・田崎仁美・橋本真奈美(共同発表)、長須康一郎、永田寛、望月美波の八題目に贈られた(敬称略)。今回の発表会で経験したことを卒業後、学会や研究会などの場でのプレゼンテーションに



口頭発表賞を受賞した石川幸江さん

後の活躍ぶりについても報告をした。

感謝の集いには、岡崎名誉会長、須藤会長をはじめ七名の方がご出席され、岡崎名誉会長からは、本学の理念に共感いただいたことから発足したこの制度のいきさつや、そのおかげをもって現在医療福祉界で活躍している卒業生たちへ、温かい激励の言葉をいただいた。本学からは、高木理事長、谷学長、開原大学院院長が出席し謝辞を述べるとともに、これまでの感謝の意を込めて、保健学部の杉原学部長から感謝状を、医療福祉学部の鈴木学部長から記念品を、それぞれ贈呈した。

(東京事務所出版広報室 遠藤あづさ)

### 第七回医療経営戦略セミナー

医療経営管理学科では一月二五日、「第七回医療経営戦略セミナー」を開催した。「平成一八年診療報酬改定の総括と今後の展望」をテーマに高橋泰学科長が講演した。医療制度改革の今後の方向性として、①高度専門急性期病院の強化、②地域医療を効率的に提供する病院の保護、③上記以外の病院の整理——が示されているため、参加者の関心は高かった。講演では病院経営に有益な戦略が紹介され、講演後の質疑応答では自病院の戦略に対しアドバイスを求める人が多かった。

また当日はこの医療経営戦略セミナーに先立ち、当学科三年生による「医療福祉施設管理実習報告会」が開催されたため、報告会とセミナーの両方に参加する人がたくさんいた。(医療経営管理学科講師 安藤由美)

も活かしてほしいと期待する。

(放射線・情報科学科)

### 医療福祉学科 卒業研究発表会

一月一七日、三・四年生が参加して医療福祉学科の卒業研究発表会が行われた。八教室に分かれて研究の成果が披露されたが、学生それぞれの問題意識が深められたことが伝わってくる内容であった。

今年度も、高齢者や障害者等の領域にとられない多様な研究テーマが取り上げられ、学生の関心の広がりを感じられた。地域包括支援センターでの社会福祉士の役割、学校での福祉教育のあり方、市町村合併による福祉行政の変化といった幅広いテーマが論じられ、自分の専門以外の領域については、あまり深く知る機会のない学生にとって、社会福祉のさまざまな実践に触れるよい機会となった。



医療福祉学科卒業研究発表会

### 幼稚園児の視機能評価実習

一月二四日(金)、保健学部視機能療法学科の四年生四七名は幼稚園に出かけて、子どもの視機能評価実習を行った。

実習の前に学生は、視力や両眼視の機能評価を円滑に実施するために、評価内容・記録方法の検討を行い、学内の実習室で園児役と検査役に分かれて予行練習を繰り返し行った。

当日、学生たちは緊張の面持ちで幼稚園の門をくぐった。しかし実習を始めるや、元気な子どもたちに囲まれ、気がつけば学生一人ひとりの緊張もほぐれ、評価に熱中している姿が見られた。

### 私のおすすめ本

イヴの七人の娘たち

ライアン・サイクス著(天野晶子訳)

ソニー・マガジンス、二〇〇一年 一六八〇円

四万五千年前に今のギリシャに生まれたアイヌという娘、二万五千年前に今のカザフスタン地方に生まれたジニアという娘……といった七人の娘たちが、現在の六億五千万人のヨーロッパ人の祖先となったことが、ミトコンドリアDNAの分析によって明らかになった、とイギリス人の遺伝学者サイクスがこの本に書いている。この娘たちは、一五万年前にアフリカに生きた大おばあさんのミトコンドリア・イヴという女性の子孫なのだ。

どうしてこんなSF的なことがわかるかというと、核内のDNAと違って、ミトコンドリアのDNAは、母親の卵子のミトコンドリアを通

評価は予想以上にスムーズに実施され、予定時間の半分で終了した。残りの時間、学生たちは子どもたちと園内で一緒に元気に遊んだ。遊びの中からも学生は子どもたちの発達を学ぶことができた。ある学生は、「短時間で効率よく子どもを飽きさせないように評価することの大切さを学んだ。もっと子ども達の発達・心理を理解していれば時間を有効に活用できたかもしれない」と感じたという。

帰りには、子どもたちが大きく手を振って見送ってくれるという、心あたたまる場面にも遭遇した。この経験が、数ヶ月後には臨床の場で活躍する学生にとって、自信につながり、現場で子ども達の検査が少しでも抵抗なく行えることを期待している。

(視機能療法学科講師 藤田純子)

小田原保健医療学部長 田中富久子

じて母方からのみ受け継がれ、かつ数千年前に著しく頻繁に、病気を起こさないような突然変異を起こす、という特徴があるからだ。これらの特徴を利用した研究から、世界全人口六億人のルーツは、アフリカに生まれたたった一人の女性に収斂されることをアメリカの進化生物学者アラン・ウィルソンが一九八七年に「ネイチャー」誌に発表し、彼女はミトコンドリア・イヴと命名された。つまり、現在の世界中の人々は、アフリカに共通の故郷を持つ親戚だということがわかったのだ。

サイクスは特にヨーロッパ人にこだわって新たに分析した結果をこの本に著したのだが、彼の一番おもしろい結論は、理屈は難しいから省くとして、成人した二人の娘を持つければ、今生きているどの女性もがある一族の母になる可能性があるということだ。試してみたら? 五万年後に結果がわかるということだ。

綾さんの声を紹介する。

「母校の大学院に助産学分野が開設されることを知り、学内推薦システムを活用、バタバタと受験したのは、ちょうど一年前のことです。講義でのデイスカッションやグループワーク、フィールドワークや実習等は刺激的で変化に富み、入学してからというもの、時間が過ぎ去る速さに驚くばかりです。学べば学ぶ程、改めて助産学の底知れぬ奥深さと、限らない広がり、そして面白さを体感する毎日です。助産師八年目、スキルアップを目標に学生生活を楽しんでいきます」

(看護学科講師 村松由紀)

### 新規着任教員紹介

三田病院

**寺田総一郎** (てらだ・そういちろう)

所属・職名	: 副院長(内科) / 教授
生年月日	: 1953年9月20日
最終学歴	: 慶應義塾大学大学院医学研究科卒業
専門分野	: 内科一般、消化器病学、肝臓病学
前職	: 浜松赤十字病院第一内科部長
授業担当科目	: 内科学、消化器病学
今後の研究課題	: 肝疾患の免疫学的検討、消化器疾患の電子顕微鏡学的研究
学会役職・その他	: 東部肝臓学会評議員、日本消化器免疫学会評議員、日本臨床分子形態学会評議員、慶應義塾大学医学部内科客員講師、医学博士



講演する唐澤日本医師会会長

少し旧聞に属するが、平成一八年七月一日に、宇都宮のバルティ（とちぎ男女共同参画センター）で行われた「セクハラ防止と企業の社会的責任について」と題して、さまざまな企業での最近の実態や裁判例とその傾向等を具体的に聞き取ることができた。

唐澤日本医師会会長が 乃木坂スクールで講演

大学院修士課程に臨床心理学専攻を設置することが文部科学大臣により認可された。〇七年四月、大学院東京キャンパス（青山一丁目）に開設予定である。三田病院をはじめとする、多くの臨床実習施設と密接に連携し、医療福祉を含む幅広い場で活躍する臨床心理士の育成をめざす。（財）日本臨床心理士資格認定協会 第一種指定大学院を申請予定である。

大学院臨床心理学専攻の設置が認可

たほどには、上司らには加害行為についての自覚がなかったのである。しかし自ら自覚がなくても、被害者が抗議している以上、ハラスメントなのである。さらに、相談担当者の対応のまずさ（二次被害）も責任が問われる傾向にあり、某市役所のセクハラ事件では、「相談担当者が適切に対応しなかったことは職務上の義務違反に当たる」と認定されて、損害賠償請求が認められた判決も出ている（平成一六年七月）。これは市役所の相談窓口担当をしているD係長が、セクハラで訴えられたE係長を同僚のよしみでかばってしまい、話を穏便にすませうとして、相談をしてきた女性職員を保護するための措置を何も取らなかったという事例である。相談窓口担当者の責任は実に重大なのである。

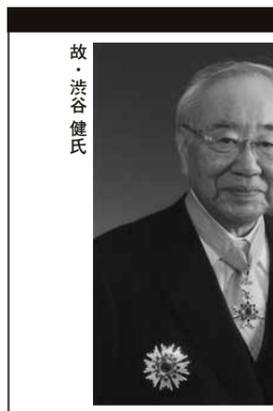
大学院の大熊、中西両教授を迎えて特別講演会を福岡市で実施

国際医療福祉大学大学院およびリハビリテーション学部主催による「看護学分野・医療福祉ジャーナリズム分野特別講演会」が一月五日、福岡国際医療福祉学院天神キャンパス（福岡市中央区）にて開催された。医療関係者をはじめ、関東から足を運んだという参加者など一般の方も多数参加し、熱心に耳を傾けていた。

講演は、大学院の大熊由紀子教授と中西睦子教授。大熊教授は「ジャーナリズムは日本の医療福祉をどう変えたか?」、中西教授は「医療の仕組みと看護管理」というテーマで講演。大熊教授は、新聞記者時代の経験を交えながら「海外の情報を発信することで、国内の医療関係者はもちろん一般の方の意識変革に役立ったのでは」と語った。なお、大熊教授の

福岡地区の新プロジェクト「シーサイド」ももち共同開発事業」始動

国際医療福祉大学・高邦会グループの福岡地区の新プロジェクトである「シーサイド」ももち共同開発事業」の起工式が〇七年一月一日、福岡市早良区百道浜（ももち浜）の建設予定地で行われた。当日は、中元弘利福岡市副市長をはじめとした来賓や関係者ら約二二〇名が参加。厳かに神事を執り行い、工事の無事を祈願した。佃亮二福岡銀行相談役が「医療への多様なニーズに応える、福岡にとって大変意義あるもの」と祝辞を述べ、これを受けて高木邦格理事長は「アジア各国から患者さんが訪れるような、福岡県の医療史に貢献するプロジェクトにしたい」と参加者に向けて挨拶した。



故・渋谷健氏

同プロジェクトは、国際医療福祉大学臨床医学研究センターである「福岡中央病院」や、グループの専門学校「福岡国際医療福祉学院」など現在福岡市内に点在する三施設を移転、集約し、病院施設、教育施設、福祉施設が一体となった地域医療の拠点作りを目指すもの。建設地の敷地面積は約二万三千平方メートルで、プロジェクト全体の竣工は二〇〇九年春の見通し。（九州広報 原田ちはる）

学校法人国際医療福祉大学監事 渋谷 健氏のご逝去

二〇〇六年八月一三日、本学監事であり東京医科大学名誉教授でもある渋谷 健氏のご逝去されました（享年七八）。 同月一七日に執り行われた告別式では、高木邦格理事長が恩師のご逝去を悼み、御霊前に弔辞を捧げました。 故人は、東京医科大学をはじめ米国イリノイ州立大学や中国医薬学院講座など各国医科大学の教授職、日本薬理学会会長、国際臨床薬理学会会長など内外の学会の要職をご歴任され、教育者として、また世界的薬理学者として精力的にご活躍されました。 また故人は東京医科大学の学長を務められた後、一九九四年より本学の理事・参与・監事をご歴任され、教授としても後進の育成にご尽力くださいました。 ここに謹んで故人のご冥福をお祈りいたします。（東京事務所出版広報室）

最近の顕著な傾向としては、客観主義から主観主義への移行ということが挙げられるとのこと。被害者が「Aさんから触られてもイヤではないが、Bさんから触られるとイヤだ」と感じる場合、Aさんのケースはセクハラにはあたらず、Bさんのケースはセクハラになるという。あくまでも訴えてきた被害者自身がどう感じているかがセクハラ認定の判断の基準になり、そのとき強く拒絶したかどうかは問題にはならないという。 また、言葉上のハラスメントも十分有罪となる。和歌山県の青果卸売会社で働く女性職員Cは、上司四名から「おはんばあ、くそばあ」などと継続的に呼ばれたことで、損害賠償請求訴訟を起こし、結果、慰謝料百万円、弁護士費用十万円。また「おばん」と呼んだ上司四名の使用責任も認められ、取締役ら被告全員の連帯債務とされた（平成一〇年三月）。被害者女性Cの本人尋問における供述や陳述書はいずれも具体的に被害を受けた日時、場所等が供述されていてその信用性が高いのに対して、上司四人らは否認したり、記憶がない旨の供述をしている。つまり女性職員Cが被害として強く感じ

私の主張 第3回 「セクハラ相談担当者セミナー」に参加して

たほどこには、上司らには加害行為についての自覚がなかったのである。しかし自ら自覚がなくても、被害者が抗議している以上、ハラスメントなのである。さらに、相談担当者の対応のまずさ（二次被害）も責任が問われる傾向にあり、某市役所のセクハラ事件では、「相談担当者が適切に対応しなかったことは職務上の義務違反に当たる」と認定されて、損害賠償請求が認められた判決も出ている（平成一六年七月）。これは市役所の相談窓口担当をしているD係長が、セクハラで訴えられたE係長を同僚のよしみでかばってしまい、話を穏便にすませうとして、相談をしてきた女性職員を保護するための措置を何も取らなかったという事例である。相談窓口担当者の責任は実に重大なのである。 以上のようなお話を午前中にお聞きし、午後はセミナー参加者がそれぞれ四人のグループに分かれ、被害者、加害者、相談担当者、そして観察者に分かれて、ロールプレイを何回も繰り返し行った。私自身はこの四役の中で一番やりやすかったのは加害者役であった。誰でも容易に加害者になりうることを実感させられた。何となく複雑な心境で、丸一日のワークショップを終了したのだった。 セクハラ事件などの起きない平和なキャンパスを心から祈るが、それでも万一今後私が相談を受けた場合、迅速で適切な対応ができるよう、常に意識を高めて心の準備をしておかなければならないと痛感した。

関連職種連携実習

二〇〇六年七月三十一日から六日間、本学初の関連職種連携実習が行われた。各学科から選ばれた五四名の学生が、七つの関連施設（国際医療福祉病院、熱海病院、マロニエ苑、栃の実荘、にしなすの総合在宅ケアセンター、なす療育園、那須療護園）を舞台に、特別編成チームを結成し、約二ヶ月の事前準備を終えての出陣である。一番遠方にある熱海病院では、教員と共に宿泊しながらの実習となった。 昨年度行われた試行の実習（国際医療福祉病院、マロニエ苑）を受けて、専門性の違いを活かしつつ、関係性の育成やケース検討を体験する事を目標に、事前学習が行われた。学生の側では自主的な親睦会も行われていたようである。 実習では、施設内のさまざまな部署に入り、他職種の視点から、実際に行われている検査や治療を見学し、利用者へのアセスメントサマリー、サービス計画を作成するための情報収集や援助を体験した。多くの学生は実習後のレポートで、「連携」を模索する中、協働する楽しさ、他職種理解の必要性、自職種理解への揺らぎ、学習していた内容の曖昧さに気づいたことなどを述べている。 医療福祉系学部教育における学科を超えての実習は「インタープロフェッショナル教育（Inter-professional Education）」として位置づけられ、全国的に見ても取り組みは始まったばかりである。

本学のように九学科を擁する大学では他に例がなく、本学の特色と言える。 実習を終えての報告会には谷修一学長をはじめ多数の教員と学生が参加し、 E棟一〇教室の全席が埋まるほどの盛況であった。学生の報告に質疑応答が活発になされたが、実習に対する学生の関心の高さを物語っているようである。この会で学長から「報告書」作成について提案があり、今年度参加した四年生が卒業前に読めるよう、現在編集に入っている。報告書には、この実習を御指導いただいた施設の職員の方、今後この実習を目指す学生、指導に当たる教員などさまざまな方に、関連職種連携実習を終えた学生の学びを共有していただき、本学の財産として残していきたいという趣旨がある。また次年度は三田病院が実習施設として協力いただけることになり、八施設での展開となる。来年度四年次生は是非この貴重な実習にチャレンジしてほしい。 この実習は、関連施設の職員をはじめ、利用者の方々の協力を得ずしては成り立たない。このことを感謝しつつ、実習の報告とともにお礼の言葉としたい。（臨床教育委員会看護学科講師 新野峰子）



マロニエ苑での実習を終えて、小堀千絵副師長さんといっしょに

国際医療福祉大学病院は一九九八年七月開設以来、二〇〇二年二月には新病院をオープンし、これまで栃木県北の中核病院として地域医療に貢献してまいりました。そしてこの度、二〇〇七年二月一日より「国際医療福祉大学病院」として再出発いたします。

当院は開設当初より国際医療福祉大学の附属施設としての役割を果たし、新病院開設以後は大学の教育実習病院としての機能を年々高め、二〇〇六年度の実習学生数は実に延べ五〇〇〇名を数えています。また、二〇〇五年度には大学に四年制薬学部が設置され、翌〇六年度からは六年制に移行されましたが、その目的の一つに薬学部実習の質的強化がうたわれており、私ども大学病院もその要望に応えるべく、施設の整備・拡充に努めております。

大学の附属施設としての機能充実もさることながら、当院は開設以来、栃木県をはじめ県北の市町村の皆さまより多大



国際医療福祉大学病院 病院長 佐藤郁夫

「国際医療福祉大学病院」に名称を変更いたします

二〇〇七年二月一日より、

附属病院  
国際医療福祉大学病院

なる御支援をいただいております。まずは地域の皆さまの健康維持、疾病治療のお役に立つことを目標としております。

当院の医療スタッフは、地元の自治・獨協両医科大学をはじめ、東北地区や首都圏など全国各地の大学病院や大病院から集まった優秀な医療者集団であります。昨今、勤務医不足が全国的に叫ばれており、とりわけ小児科・産科医不足は深刻ですが、幸いなことに当院では小児科医七名、産婦人科医六名の体制をとっており、NICU（新生児集中治療部門）で未熟児・病児やハイリスク妊産婦をお引き受けできる、高度な周産期医療を提供しております。

また当院には、神経難病センター（二四床）、リプロダクティブセンター、透析センター（四一床）、予防医学センターなどが開設されており、優秀なスタッフの管理のもと、専門性の高い診療を行っています。

医療機器につきましては、心臓カテーテル検査と脳血管内治療を同時にできるよう血管造影装置を二台設置し、リニアック「Cアーム型ラジオサージェリーシステム」をはじめ、高度医療の実施に必要な最新鋭設備も積極的に導入しております。また、電子カルテの導入に向け、PACSシステムも整備いたしました。

国際医療福祉大学病院の誕生に際しましては、栃木県医師会、地元郡市医師会、県保健福祉部の皆さまより多大なるご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。これからは県北の拠点病院としての役割を果たし、地域住民の皆さまのご期待に応えるべく努力いたしますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

「地域の皆さまのご要望に応えられるよう、今後も充実した公開講座を企画したい」と話すのは、徳江章彦マロニエ苑施設長。今後も健康教室を開催し、地域の皆さまへ介護予防についての情報提供を続けてまいります。マロニエ苑への入所者も随時募集していますので、お気軽にお問い合わせください。（☎二八七三六六六二）（マロニエ苑 小林孝久）

国際医療福祉大学ハンドベル部  
クリスマスコンサート

二〇〇六年二月九日夕方、国際医療福祉大学病院一階の総合ロビーにおいて、毎年恒例の「国際医療福祉大学ハンドベル部」によるクリスマスコンサートが開かれました。大勢の外來患者様や入院患



（総務課 小林庸良）

生き生きと老後の健康教室  
「簡単にできる介護予防体操」

介護老人保健施設マロニエ苑にて開催される人気の公開講座「生き生きと老後の健康教室」。

二〇〇六年一月一日は「簡単にできる介護予防体操」をテーマに開催し、約六〇名という多数の皆さまが参加され、いろいろ工夫された介護予防体操に熱心に取り組まれました。軽快でユーモアあふれる講師のお話、会場からも大いに笑いが上がりました。

「地域の皆さまのご要望に応えられるよう、今後も充実した公開講座を企画したい」と話すのは、徳江章彦マロニエ苑施設長。今後も健康教室を開催し、地域の皆さまへ介護予防についての情報提供を続けてまいります。マロニエ苑への入所者も随時募集していますので、お気軽にお問い合わせください。（☎二八七三六六六二）（マロニエ苑 小林孝久）



者様に聴いていただき、たいへん好評でした。

今年「サイレントナイト」の夜や「ザ・ファーストノエル」をはじめとするクリスマスソング六曲に、リクエスト曲を加えた計七曲を演奏。ハンドベルはその音色から「天使の歌声」と呼ばれているようで、ベルの鳴らし方により、驚くほど澄んだ、さまざまな音色が出ます。とかく暗い話題の多い世の中で、肩をすぼめ、伏目がちに歩いている毎日ですが、清澄なハンドベルの音色に耳を傾けているうちに、「ちよつと立ち止まって空でも見上げてみようか」と思えるような、清々しい空気が病院内に満ちあふれました。来年も開催を予定していますので、ぜひお立ち寄りください。（総務課 小林庸良）

施設インフォメーション  
News: Affiliated Facilities

特別介護老人ホーム  
「おおたわら風花苑」  
二〇〇七年二月より入居開始！



おおたわら風花苑 施設長 古森忠男

新年おめでとうございます。

昨年一月より国際医療福祉大学の構内に整備を進めておりました新設の特別介護老人ホーム（以下、特養）「おおたわら風花苑」がこのたび完成いたしました。社会福祉法人邦友会としては、同じく大学構内の福祉施設「国際医療福祉リハビリテーションセンター」「おおたわら総合在宅ケアセンター」そして那須塩原市の特養「栃の実荘」に次ぐ四番目の施設となります。

「おおたわら風花苑」の名称は公募により決定し、応募総数一九一件の中から選ばれたものです。当那須地域の初冬に那須の山々から吹き降ろす雪の情景を表したもので、私どもの目指す「地域に根ざした福祉施設」にふさわしい名称であると嬉しく思っております。

本施設は栃木県内でちょうど一〇〇番目の特養で、新方式の「ユニット型」を

取り入れていきます。入所定員は四〇名、ショートステイ三〇名（計七〇名）で、全室が個室（トイレ付）。人権やプライバシーを尊重し、できるだけご家庭の延長での生活を確保できるように、入居者様の使い慣れた家具類や寝具類も持ち込みいただけます。

ユニットに七〜九名が小規模での共同生活を営み、食事の配膳も各ユニットで行うなど家庭の温かみを感じられ、楽しく、安らぎのある生活を送れる環境作りに努めております。他施設ではなかなか見られない地域交流スペースや、ボランティア作業室・控室、理美容室なども設置いたしました。

入居開始は二〇〇七年二月初旬とし、受け入れに万全を期すよう、職員一丸となつて準備を進めております。

大学構内施設として、学生の実習・ボランティア活動に活用していただくことはもとより、地域交流の場として、また地域に根ざした福祉の拠点として、周辺地域の皆さまにも大いに活用いただきたいと願っております。

今年はその年の中でも六〇年に一度の「金猪年」で、たいへん縁起の良い年です。猪突猛進とは言わずとも、大きな目標に向かい、一日一日が完成への道程と肝に銘じ、サービスマス向上に努めてまいります。



■ おおたわら風花苑

施設のご案内 「おおたわら風花苑」は全室個室のユニット型老人ホームです。昨年末に竣工したばかりの建物の内部をご紹介します。

【施設概要】  
運営主体 社会福祉法人 邦友会  
設置場所 栃木県大田原市北金丸2600番地10  
定員 入所40名、ショートステイ30名  
施設規模 鉄筋コンクリート造 地上3階建  
面積/敷地4,642㎡、延床4,471㎡  
協力医療機関 国際医療福祉大学病院（206床）  
国際医療福祉大学クリニック

【連絡先】  
TEL: 0287-20-2230  
FAX: 0287-22-2666

3rd. floor

3F ショートステイユニット「やみぞ」「たかはら」

【3階個室】 ショートステイ用も入所用も個室の基本的な作りは同じだが、床や天井、壁、家具類の色合い等を少し変えるなどの工夫が施されている。個室トイレは3枚扉で、車いすの方でもゆったり使用できるようスペースを有効活用している。

【3階共用浴室】 各ユニットに共用の広い浴室、トイレ、簡易キッチン、ランドリールームなどが設置されている。共用浴室は浴槽の3方向から介護支援できる作りになっている。

2nd. floor

2F 入所ユニット「ざぜんそう」「あじさい」「こぎく」「りんどう」

【2階共用スペース】 燦々と陽のそく共同生活室は、食事をするほか、テレビを見る、談笑する、催事を行うなどさまざまに活用できる。お年寄りがゆっくりくつろげるよう、量のスペースも用意されている。

1st. floor

1F 入所ユニット「いちよう」「けやき」、機械浴室、医務室ほか

【地域交流スペース】 地域の皆さまに気軽に立ち寄りいただき、有効利用していただきたいのがこの地域交流スペース。入居者との交流の場としても積極的に活用していきたい。

【理美容室】 入居者の皆さまに快適に過ごしていただけるよう、本格的な設備を整えた理美容室。

【スタッフの皆さん（一部）】 「「介護させていただく」という精神を常に念頭におき、入居者の皆さまとの生活を通して職員自身が学び、成長していきたいと思っております」



呼吸体操実技中

**山王病院**  
第四回山王病院呼吸教室を終えて  
山王病院呼吸器センター医長 国際医療福祉大学助教授 須藤英一

一時的SARS騒動や、昨今のマスコミの鳥インフルエンザ感染報道への人々の関心、また高齢化社会の進行、慢性呼吸器疾患患者の増加などを背景に、当センターでは皆さまのご要望に心える形でこの数年、毎年一二月に呼吸教室を開催しています(日老医誌2006;43:630-634参照)。

第四回(二〇〇六年一月二八日)の参加人数は、ご家族も含めて三九名でした(三三歳〜八四歳)。筆者から、肺の病気の総論(肺のはたらき、病気、喫煙・加齢の影響、かぜとインフルエンザの違い、予防法、免疫力の向上方法、呼吸リハビリテーション紹介、排痰介助器具・呼吸

筋トレーニング機器の紹介等)についてお話しし、外来看護師長からはテキストに則り、呼吸方法・呼吸(筋ストレッチ)体操の実技指導が行われました。また呼吸器センターの看護師からは、風邪をひかないための具体的な予防法についての話があり、管理栄養士からはかぜ予防の食材やメニューが紹介されました。会場には「肺機能測定体験コーナー」「排痰介助器具・呼吸筋トレーニング機器・非侵襲的人工呼吸(補助)器使用コーナー」が設置され、また休憩時間には正しい呼吸法・排痰法のビデオ鑑賞の時間も設けられました。お帰りの際には管理栄養士から、かぜ予防に良い(?)ビタミンを含んだ手作りのクッキーとケーキが用意として渡されました。

終了後のアンケートでは「勉強になった」「(二九名)「楽しかった」(二六名)などの感想が寄せられ(回答数三八名・複数回答)、次回の開催を「希望する」と答えた方は三四名に上りました。毎年、なるべく最新、流行の知識・情報を伝えようとしています。感想欄には「同じ話でも年に一回お聞きすると、丁度忘れる頃なのでとても良い」「(五〇代男性)のご意見も散見され(ちなみに今回の参加者中一一名がこれまでの呼吸教室に複数回参加)、今後も継続して開催することといたしました。口幅つたい表現ですが、毎回終了後の反響に期待と責任を痛感し、心を入れ替える(?)恒例の年末でした。

この場を借り、開催にご協力いただいた当院事務スタッフの皆さまや、検査室、栄養課、当センターのスタッフ、関係諸氏に心より感謝申し上げます。

**笑顔こぼれる「クリスマス会」**  
療養病棟では二〇〇六年一月二五日

「熱海病院慰霊祭」開催される  
二〇〇六年一月一八日、当院としては初めての「病院慰霊祭」を開催しました。二〇〇二年七月の開院から二〇〇六年三月までの四年間に病理解剖を承諾していただいた患者様のご遺族を対象に、参



【演目】①ぶち合わせ太鼓、②八丈島太鼓、③津軽じょんがら節、④鏡子早打ち太鼓

**化学療法研究所附属病院**  
共に成長する「プリセプター」勉強会実施  
当院では今春、久々に新卒看護師を迎えるにあたり、プリセプターシップ(先輩ナースが新人ナースとペアを組み、日常業務を通じてマニッパマン指導を行う)をあらためて始めます。その準備としての勉強会を二月一五日に、入村瑠美子関連病院看護室顧問を講師に実施しました。(主催…看護部)

当日の目的は、まずプリセプターシップの概略について看護部全員が学習すること。入村顧問はご自身の現場での経験談やエピソード、子育て法などを講義に織り交ぜ、プリセプターの役割をわかりやすく解説してくださいました。

今後は、新人ナースを受け入れる四月までに、手順や基準の整備、受け入れプログラムの準備と役割分担などを進めていきます。当院では引き続き院内教育の充実を図り、スタッフ全体のスキルアップに努めてまいります。



高木邦格理事長 赤枝恒雄港区医師会副会長 厚治秀行港区医師会会長



**国際医療福祉大学熱海病院**  
第一回熱海伊東薬剤師勉強会  
地域医療への貢献を念頭に、地域の薬剤師のレベル向上を目的として、この地域では初めての薬剤師主体の定期的な勉強会を始めました。

二〇〇六年一月一七日に当院の大会議室にて第一回目が開催され、悪天候のなか、四〇名を超える薬剤師の皆さまが参加されました。

今回は「がん疼痛マネージメント」これからの在宅緩和ケアを交えて」をテーマに、外部講師による講義の後、活発な討論が行われました。閉会時には熱海市薬剤師会の岡田国一会長より会発足の御礼のお言葉があり、継続した勉強会の実施を求められました。今後も地域中核病院の薬剤師の一人として、責務を果たせるよう努めてまいります。(薬剤部 鈴木高弘)

**「熱海病院小嵐祭(仮)」の新築工事安全祈願祭を挙**  
熱海病院職員寮の着工がいに決定し、二〇〇六年一月一七日、建築予定地近くの駐車場にて安全祈願祭が執り行われました。

当日は晴天の下、熱海病院、日本医療サービス株式会社(発注者)、株式会社医療福祉建築機構(設計管理者)、木内建設株式会社(施工主)ら関係者が参列し、神職により厳かに安全祈願が行われました。

建物は鉄筋コンクリート造りの地上六階建て(部屋数一〇〇室)。完成は二〇〇七年一〇月を予定しています。(総務課 篠原拓真)

**附属病院**  
国際医療福祉大学三田病院  
三田病院・山王病院  
「医療連携懇談会」を開催  
二〇〇六年一月二五日、一九時よりホテルニューオータニお鶴・麗の間に於いて、恒例の「医療連携懇談会」を開催しました。この度は国際医療福祉大学三田病院・医療法人財団順和会山王病院の共催とし、約一五〇〇名の案内状を送ったところ、一八〇名がご出席、会場は熱気に包まれました。

開会に先立ち、今回制作した「病院紹介ビデオ」を放映しました。両病院長の挨拶、三田病院の各診療科と医師、山王病院の各診療科と施設概要を約一五分で紹介しました。

大山邦雄三田病院副院長の司会のもと、高木邦格理事長、谷修一国際医療福祉大学学長の挨拶でいよいよ開会となり、ご来賓を代表して港区医師会会長の厚治秀行先生の挨拶、同副会長の赤枝恒雄先生の乾杯の音頭と続きました。

会中、正面ステージを利用して、ビデオではご紹介できなかった山王病院の医師紹介などを盛り込みながら盛況のうちに進み、福井康之三田病院副院長の締めめで終始、活発な交流が交わされました。

この「医療連携懇談会」は旧専売病院の園遊会を引き継いだもので、三田病院としては二回目となり、冒頭でも述べました通り、今回は山王病院との共催で開催しました。グループとしてさらに医療連携を深め、地元医師会をはじめとする多くの皆さまのご期待に応えるべく邁進いたします。(総務課 金井雅之)

**「熱海病院小嵐祭(仮)」の新築工事安全祈願祭を挙**  
熱海病院職員寮の着工がいに決定し、二〇〇六年一月一七日、建築予定地近くの駐車場にて安全祈願祭が執り行われました。

当日は晴天の下、熱海病院、日本医療サービス株式会社(発注者)、株式会社医療福祉建築機構(設計管理者)、木内建設株式会社(施工主)ら関係者が参列し、神職により厳かに安全祈願が行われました。

建物は鉄筋コンクリート造りの地上六階建て(部屋数一〇〇室)。完成は二〇〇七年一〇月を予定しています。(総務課 篠原拓真)

加の呼びかけを行いました。当日はご遺族、病院職員あわせて約四〇名が参加し、病理解剖を承諾していただいた患者様に感謝の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈りしました。高梨吉則病院長の挨拶の後、全員で黙祷を捧げ、主治医代表として川口実副院長、看護部代表として平野澄子看護部長が慰霊の言葉を述べました。最後に参列者全員の手で献花が行われ、慰霊祭は滞りなく終了しました。

## 「医療福祉チャンネル774」おすすめの番組

医療福祉チャンネル774では、衛星放送スカパーフェクTV!774チャンネルで、医療・福祉・健康・介護に関する教育、教養、情報番組を放送!

### 国際医療福祉大学大学院 医療福祉ジャーナリズム分野

#### 特別講演会

#### ●ジャーナリズムは日本の医療福祉をどう変えたか?

講演者の大熊由紀子教授は朝日新聞科学部次長を経て、1984年から17年間、論説委員として医療・福祉・科学・技術分野の社説を担当されていました。朝日新聞時代、政府のゴールドプラン（寝たきり老人ゼロ作戦、ホームヘルパー10万人、身体拘束ゼロ作戦など）のきっかけをつくられた経験をもとに、「ジャーナリズムは日本の医療福祉をどう変えたか?」の演題でご講演いただきました。



大熊由紀子教授 (国際医療福祉大学大学院)

### 一人ひとりに適したサービスを提供

#### きらり☆介護自慢 第9回

#### ●第二の人生30年の過ごし方～京都ゆうゆうの里

第二の人生をあなたはいつ、どこでスタートさせますか? 有料老人ホームという選択が珍しくなくなった今、明確なコンセプトを掲げて新しい第二の人生のあり方を提案する施設があります。体が弱ってから入るのではなく、元気なうちに入居して、そのまま30年充実した自分らしい人生を送っていただきたい。そのためのサービスを提供したいという「京都ゆうゆうの里」をご紹介します。



写真左:自然と触れあう「さわやか健康プログラム」  
写真右:釜入れ、絵付け、そのプロセスが楽しい陶芸教室

### 同じ体験をした人同士が支え合う会

#### 患者の声を医療に生かす 第9回

#### ●誇り高く美しく～あけぼの会

日本では、毎年およそ3万5千人の女性が乳がんを発症するとされています。1978年に設立された乳がん患者の会「あけぼの会」では、病院を訪問し、これからの生活に不安を覚える乳がん患者の疑問に答えたり、必要な情報を提供したりしています。再発への恐怖、社会復帰への不安……。乳がんと闘う女性たちの心に寄り添い、勇気を与えようと奮闘する会の活動を紹介します。



ワット隆子会長 (あけぼの会)



「乳がん月間」が始まる10月1日に東京タワーをピンク色にライトアップし、「乳がんの早期発見の大切さ」をアピールしたキャンペーン

### 介護福祉士受験講座

#### インターネットで学習できるようになりました!

医療福祉チャンネル774で毎年大好評の受験講座が、ついにインターネットで配信開始! いつでも・どこでも・何度でも……忙しいあなたも自分のペースで学習できます!

「ケアマネジャー受験講座」も配信中



サンプル動画はこちらから

<http://www.mew-learning.tv>

完全準拠  
テキスト  
ついています!



#### ●医療福祉チャンネル774を見るには

「医療福祉チャンネル774」は衛星放送スカパーフェクTV!の774チャンネルでご視聴いただけます。ご視聴には、スカパーフェクTV!専用アンテナ&チューナーをお部屋のテレビにつなぐだけ!

- 視聴料・・・月額2,100円 (このほかに、スカパーフェクTV!加入料・・・2,940円(初回のみ)・スカパーフェクTV!月額基本料・・・410円がかかります)
- 法人契約・・・5,250円
- IUHW学生、マロニエ会会員、教育後援会会員の皆様は、特別視聴の制度があります。下記までお問い合わせください。

#### ●視聴に関するお問い合わせは

フリーダイヤル 0120-870-774 ((株)医療福祉総合研究所 お客さま係) Eメール [info@iryoufukushi.com](mailto:info@iryoufukushi.com) HP [www.iryoufukushi.com/](http://www.iryoufukushi.com/)

### お知らせ

IUHW Information

#### 学位記授与式・入学式のご案内

##### 平成18年度 学部学位記授与式並びに大学院学位記授与式の日程

- 学位記授与式  
日時:平成19年3月9日(金) 10:20～  
会場:大田原キャンパス 那須アスリーナ1階  
\*学位記授与式終了後のスケジュール
- 学科別学位記授与式並びに大学院学位記授与式  
時間:13:15～  
会場:大田原キャンパス 講義室(詳細については当日の資料でご確認願います)

##### 平成19年度 学部入学式並びに大学院入学式の日程

- 大田原キャンパス  
日時:平成19年4月5日(木) 10:20～/会場:那須アスリーナ1階
- 小田原キャンパス  
日時:平成19年4月4日(水) 時間は未定/会場:体育館
- 大川キャンパス  
日時:平成19年4月7日(土) 時間は未定/会場:講堂

### IUHW 短信

IUHW Note

#### 学生&企業研究発表会で本学学生が銀賞

12月2日、とちぎ大学連携サテライトオフィス主催の第3回学生&企業研究発表会がとちぎ産業創造プラザで開催され、本学からは口頭発表部門に5組、ポスター部門に4組、計9組24人が参加した。

保健学部看護学科4年の小松裕佳さん、齋藤由佳さん、増田麻理さん、横田優希さんのチームが口頭発表部門で銀賞を受賞した。研究発表のテーマは「アンモニア臭気における消臭方法の検討～水、トイレ用消臭・芳香剤、レモン果汁、ゆず果汁、梅酢による効果～」で、指導教員は新野峰子講師。受賞おめでとうございました。